

関空から関西の「食」を世界へ

関西の経済界、自治体等は「ALL関西」として連携し、関西国際空港(関空)を活用した「食」の輸出推進に取り組んでいる。昨年8月には、関空を拠点空港として、共同で多品目の商品提案、海外販路の拡大をはかる「関西・食・輸出推進事業協同組合」が設立された。関空の強みを生かし、アジアを中心に各国に関西の「食」の魅力を伝える同組合の取り組みについて紹介する。

関空からの食輸出推進プロジェクト

24時間空港の強みを生かし、関空を生鮮食品貨物のハブとするため、関経連、関西国際空港全体構想促進協議会、大商、新関西国際空港の4者は、2012年5月に「ALL関西『食』輸出推進委員会」を立ち上げた。

関西から「食」の輸出を推進するべく、日本貿易振興機構(ジェトロ)や近畿農政局など関係機関とも連携し、「食」の生産者や卸売業者な

どを対象に、食輸出に関するセミナーや、海外のバイヤーとの商談会、物産展などを実施してきた。

関西・食・輸出推進事業協同組合の発足

これらの取り組みがきっかけとなり、昨年8月、関空運輸、ひろ、澤井牧場、市文字屋興三郎の4社により「関西・食・輸出推進事業協同組合」(以下、組合)が設立された。国の「日本再興戦略」等でも日本の農林水産品等の輸出拡大が重視されるなか、「食」の輸出拡大をめざ

した多業種による事業協同組合の設立は全国でも珍しく、注目が高まっている。

9月9日には関空島内で発会式を行い、「食」の生産者や卸売業者に加え、エアラインやフォワーダー、自治体や公的機関等、関係者約80名が参加した。冒頭、志田孝一・近畿農政局次長、松本裕樹・ジェトロ大阪本部本部長、春田謙・新関西国際空港副社長よりそれぞれ祝辞が述べられた後、理事長を務める内畑谷剛・関空運輸代表取締役より、組合の事業計画が発表され、関西の食材を用いたメニューの試食会などが行われた。



発会式の様子

〈関西・食・輸出推進事業協同組合設立メンバー〉

関空運輸株式会社 (加工食品等)
代表取締役 内畑谷 剛
所在地：大阪府泉佐野市

株式会社 ひろ (鮮魚・活魚)
代表取締役 山下 博由
所在地：三重県北牟婁郡、大阪府泉南市

有限会社 澤井牧場 (近江牛)
代表取締役 澤井 隆男
所在地：滋賀県蒲生郡竜王町

株式会社 市文字屋興三郎 (野菜・果物)
代表取締役 森本 千恵美
所在地：京都市上京区

〈関西・食・輸出推進事業協同組合の活動フロー〉



・組合に関するお問い合わせ(事務局)：
〒598-0002 大阪府泉佐野市中庄102-1 関空運輸内 TEL:072-469-3010

組合では、「物流と流通を融合させた新しい食輸出のスタイルを創る」をテーマに、関空を拠点空港として、中小企業1社ではなし得ないスケールメリットを發揮し、共同で多品目の商品提案や海外販路の拡大をはかる。多品目を同時に配送・輸出することで物流コストを削減し、共同で販路拡大をめざす。産地に近くアジアへの直行便が多い関

空の利点を生かし、朝獲れた生鮮品をその日のうちに直送で消費国に届けることも可能である。

また、中小企業ならではのこだわりの食材を豊富にそろえ、関西の「食」の総合カタログやホームページを作成し、充実した品ぞろえがいつでも海外バイヤーから閲覧可能なマッチングシステムを構築する予定である。通関手続きや書類作成、梱包、決裁手続きなど、あらゆる面において組合員の輸出をサポートする。決裁手続きシステムも構築し、日本国内と同じように取引が可能になる予定である。

「第3回ALL関西フェスティバル in バンコク」の開催

関西からの食輸出拡大と、関西へのインバウンド拡大をめざし、組合ではALL関西「食」輸出推進委員会ほかとの共催により、昨年10月17日～27日まで「第3回ALL関西フェスティバル in バンコク」を開催した。

伊勢丹バンコク店の催事場にて、近江牛、鮮魚、菓子、高級フルーツ等の物産品の販売や、たこ焼き、いなりずし、抹茶等のワークショップ(実演)と販売を実施。また、特設ステージや店内では、南京玉すだれショーや関西ゆるキャラショー等のイベントを実施し、関西の文化を紹介した。インバウンド促進に向けては、日系旅行代理店の協力による関西向け旅行商品の販売・相談会を開催するとともに、パンフレットやタイ語版のDVD映像により関西各地の観光案内を実施。多くの人が関

心を寄せた。

さらに、ALL関西フェスティバルの開催にあわせ、バンコク市内の高級レストランにおいて、現地の報道関係者などを招き関西の食材を用いたメニューのプロモーションを行った。

期間中の同フェスティバルへの来場者数は約7,000名、物産展の売上高は約1億4,900万円に上り、特に、柿をはじめとする高級フルーツや関西の有名店による実演・販売が好評であった。計3回の開催を通じて、食べ方などを含めた関西の「食」や「文化」を紹介し、「関西」ブランドや関西の「食」の知名度向上がはかられた。



物産展の様子



関西文化紹介イベント

食輸出推進事業の今後の展開

タイ以外の地域での販路拡大も進んでいる。マカオでは2012年度

にBtoBの商談会を実施。関空から週2～3便の定期的な食材出荷へとつながっている。また、マレーシアでは、昨年9月に大規模な「食」の展示会にALL関西として初めて出展し、展示会での商談を通じてその後の取引へとつながった。本年2月には「ALL関西フェスティバル in クアラルンプール」を開催し、バンコクと同様、関西食材の物産展と関西文化のPRを行う予定である。

インドネシアでは、関空—ジャカルタ間の直行便就航にあわせ、昨年11月に現地でもBtoBの商談会を行った。インドネシアでは日本からの食品輸入にライセンスや証明書の取得などを要し、厳しく規制されているが、現地バイヤーからの関西の食材に対する評価は高く、日本食への関心の高さがうかがわれた。3年前にタイ1国から始まった食輸出事業は、このようにアジア各国に広がり、アジアを「面」でとらえた取り組みへと成長してきた。

組合では、販路拡大と並行して組合員数と品ぞろえの増強、売上げの増加をめざしている。国内では、昨年12月に和歌山で、組合のメリットや、生鮮品専用定温庫など関空の「食品輸出ハブ」としての機能についての説明を行うセミナーを開催した。順次、他の府県でも開催する予定である。

今後も、ALL関西「食」輸出推進委員会は組合の活動をサポートし、ALL関西で関空からの食輸出拡大に取り組んでいく。

(地域連携部 山根吉貴・矢野ひとみ)

関空からの食輸出を通じて、 日本の伝統・文化を海外に伝えたい

内畑谷 剛 氏

(関西・食・輸出推進事業協同組合理事長、関空運輸代表取締役)



組合発足の経緯

「関西・食・輸出推進事業協同組合」(以下、組合)の発足を考えたのは、2年半ほど前に新関西国際空港や経済界、自治体とともに食輸出を活性化するための食輸出セミナーや海外物産展の取り組みを始めたことがきっかけでした。

一連の活動の中で見えてきたのは、海外に進出したいと考えている事業者は多数いること、しかし、特に中小企業は、国内の食マーケットが縮小していくなかで、まず何をすればいいのかわからない、煩雑な書類作成なども一事業者で対応するのは難しいといった、食輸出を行う上での課題を抱えているということでした。そこで、セミナーや物産展を通じて知り合ったメンバーとともに各社を組合員とする団体を設立するに至ったわけです。

これまでの取り組み

今は特に、販路拡大に注力しています。先般、マレーシアとインドネシアに赴き、マレーシアでは早速に取引開始が決定した業者もあります。2月に予定している物産展では、さらに取引を拡大したいと思います。インドネシアについては、まだ日本食が普及していないので少し時間はかかるかもしれませんが、潜在需要はあると感じました。また、マカオや香港での販路拡大も進めていますが、これらの地域については、直行便が多く、定温輸送を可能にするクールチェーン等の設備が整っているという関空の強みを存分に発揮することができます。朝、日本で獲った魚を夕食の食卓に出すことができる、そんなスピーディーな輸送ができることをPRしています。

販路拡大に際しては、ALL関西「食」輸出推進委員会によるバックアップが対外的な信用を高めており、官民一体となって取り組みを展開しているところを目新しい点としてアピールしています。昨今は国や自治体も食輸出に

注力し始めていますし、企業単体では難しい継続的な取り組みの受け皿となれるように頑張りたいですね。

今後の展開

まず進めたいのがマッチングサイトの構築です。組合員の商品を掲載し、海外バイヤーが直接欲しい商品を選択し決済までを完了させることができるB to Bのサイトを立ち上げる予定です。

また、現在は現地バイヤーに買い付けてもらったものしか輸出することができませんが、将来的には現地にアンテナレストラン等を展開し、こちらから提案したい食材を提供して反応を見ることができるような仕組みも作りたいと考えています。

組合員のさらなる拡大に取り組むとともに、このような活動の下支えとなる、組合の事務局機能増強といった組織体制の整備も進めていきます。

食輸出を通じて伝える日本の伝統・文化

京都のある老舗の和菓子屋のご主人からうかがったお話ですが、国内の和菓子市場が縮小傾向にあり危機感を持たれていたなか、息子さんが後を継がれることになり、将来に対しての問題意識を持たれたそうです。そこで、2年半前の食輸出セミナーに参加され、バンコクでの物産展にも出展されました。初めての海外出展でしたが、そこで海外市場の可能性を確認され、その後は毎年バンコクの物産展に参加されています。組合の存在により、海外販路への希望を見出し、一步を踏み出すことができた、とのことでした。組合の意味と価値は、このような事業者の受け皿となれることにあると認識しています。あわせて、単に食材を送るだけでなく、日本の伝統や独自の文化も伝えることを使命と考え、今後も活動を進めてまいります。(談)